

授業科目名	教育心理学	教員名	野崎 秀正	免許・資格との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
授業形態	講義	担当形態	単独	卒業要件	保育士	
科目番号	SEN103	配当年次	1年後期		こども音楽療育士	必修
単位数	2単位			小幼コース	必修	
科目	教育の基礎的理解に関する科目（幼稚園及び小学校）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
一般目標	<p>教育心理学の授業では、幼児、児童及び生徒の学習過程や発達過程を理解し、より効果的な教育を展開するための素地を形成することを目標とする。具体的な一般目標・到達目標は以下の通りである。</p> <p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。</p> <p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。</p>					
到達目標	<p>(1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程</p> <p>1) 幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。</p> <p>2) 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。</p> <p>(2) 幼児、児童及び生徒の学習の過程</p> <p>1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。</p> <p>2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。</p> <p>3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。</p>					
授業の概要	<p>教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。</p> <p>この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育過程における学習理論について学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、幼児、児童及び生徒の発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達や学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や幼児、児童及び生徒のパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。</p> <p>授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業計画	<p>第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。（目標(1)-1), (2)-1))</p> <p>第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。（目標(2)-1))</p>					

	<p>第3回：【学習②】 洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。（目標(2)-1）</p> <p>第4回：【学習③】 学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。（目標(2)-2）</p> <p>第5回：【学習④】 記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。（目標(2)-2）</p> <p>第6回：【発達①】 発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。（目標(1)-1）</p> <p>第7回：【発達②】 発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。（目標(1)-1）</p> <p>第8回：【発達③】 生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論やエリクソンのライフサイクル論を理解し、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。（目標(1)-2）</p> <p>第9回：【発達④】 発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。（目標(1)-2）</p> <p>第10回：【教授法①】 発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。（目標(2)-3）</p> <p>第11回：【教授法②】 プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。（目標(2)-3）</p> <p>第12回：【応用①】 学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。（目標(2)-2）</p> <p>第13回：【応用②】 教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また幼児、児童及び生徒のパーソナリティ理解についても学びを深める。（目標(2)-2）</p> <p>第14回：【応用③】 知能の定義や考え方の歴史的変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。（目標(2)-2）</p> <p>第15回：【応用④】 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。（目標(2)-3）</p> <p>期末試験</p>
学生に対する評価	<p>授業外学習の課題として提出するレポート・ワークの内容と期末試験の結果による総合評価を行う。評価の割合はレポートが全体の30%、期末試験の成績が全体の70%とする。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業にて、口頭で行う。
時間外の学習について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。</p> <p>授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある。</p>
テキスト	<p>授業毎に資料、ワークシートを配付する。</p>
参考書・参考資料等	<p>参考書：『幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針（最新版）』 文部科学省・厚生労働省 チャイルド本社</p> <p>『小学校学習指導要領（最新版）』</p> <p>参考資料等：適時提示する。</p>
担当者からのメッセージ	<p>授業への主体的な参加を期待します。</p>
オフィスアワー	